

＜先週の説教から＞

『ルカ62 一人に踏みつけられても』

武田真治牧師

詩編 94:12~19 ルカ福音書 8:1~8

今日の箇所にはイエス様の伝道活動の最初から女性たちが重要な役割を果たしていた事が記されています。即ち「七つの悪霊を追い出していただいたマグダラのマリア、ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも（イエス様と12弟子と）一緒であった」です。

これはルカ福音書だけの報告ではありません。マタイ福音書(27:55~56)もマルコ福音書(15:40~41)も同じ内容が記されています。ただこれらの福音書はイエス様の死の後にひっそりと書かれているのに対し、ルカは12弟子と肩を並べる形で堂々と記されています。これは、ユダヤ教では女性たちが礼拝や祭儀に関わる役割や期待はほぼない状況でしたが、キリスト教になってその役割や地位が大きくなった影響から、マタイやマルコはあまり強調しなくなっただけかもしれません。むしろ、ルカはありのままを報告したとも言えます。いずれにしろ、ガリラヤ伝道の最初から女性たちが活躍していたことは事実であったのです。

最初の女性＝マグダラのマリアは、マグダラ(＝「塔」という意味)とは町の名前でガリラヤ湖畔の比較的大きな港町でした。この町出身ということです。「七つの悪霊」に取り憑かれていたとは、とても酷い、質の悪い病気に罹っており、長く辛い状況にあったという意味です。そして、その病をイエス様によって癒やされたのでしょう、その感謝の思いで、その後の生涯をイエス様に奉仕しようと考えたのでしょう。また、次のヘロデの家令クザの妻ヨハナで、ヘロデとはあのイエス様がお生まれになったときベツレヘムの二歳以下の男の子を皆殺しにしたヘロデ大王の息子ヘロデ・アンティパスで、このガリラヤ地方の領主でした。その家の家令(＝管理者、差配者)ですから、クザ(＝「水差し」という意味)はかなりの地位であったことでしょう。その妻がヨハナ(＝「主は恵み深い」)ですから彼女もそれなりの教養や地位を

有していたでしょう。彼女がどのようにイエス様と出会ったかは書かれてありません。ただ、ずっとイエス様達に奉仕しながら伝道の旅を共にしていたとするなら、そのクザの家を出ていたことになります。そこには様々な事情が考えられますが、決して安穏とした人生ではなかったことでしょう。三人目のスサンナ(＝「百合の花」)については何も分かりません。以上の女性たちはイエス様に会い、救われた人たちであったには違いありません。このような女性たちが「その他にもたくさんいた」と言われているのです。

この後、ルカ福音書は何の前触れもなく、いきなり『種蒔きのたとえ』を記します。それはあたかも、当時、ユダヤ教の祭儀から外されていた女性たちにもちゃんとイエス様の“種”がしっかりと蒔かれていたこと、そして根付いたこと、それは決して例外的な出来事ではなく、その種をしっかり受け止め、良き実をたくさん実らせることの出来る「良き畑」であったことを示そうとしているのではないのでしょうか。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 12月24日(水) 休会
II. 12月25日(木) 休会

*ひつじ雲の会 12月22日(月) 10:00~

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女42 計59
祈祷会 I. 男4 女2 計6 II. 男1 女6 計7
日曜学校 幼稚科4 小中科8 計12
ハンナの会 <12月16日(火)> 男2 女6 計8

【次週礼拝】 12月28日(日)

聖書: イザヤ書 32:15~20
ルカによる福音書 8:4~15

説教: 「ルカ63—荒野が園となるために」
武田真治牧師

讃美歌: 245(1)、32、257、479、528、
29(1)

【次週当番表】

司式: SY 長老 奏楽: NY 礼拝: KY 長老
献金: AH AK 受付: KH ST
会堂準備: OK KH KA TN
NE

看板: NY 週報: IT お花: HM

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会
・牧会/伝道/礼拝各委員会
・ダビデ会のクリスマス祝会

66-51

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025年 12月 21日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549